

同時管理できる現場増加 現場訪問件数劇的に減少



民谷亮人氏(左) 高橋勅光氏(中央)

南雄次氏(右)

IT導入で
生産性向上

同社の年間完工棟数は
約30棟。新築物件は、現

【リポート／企画開発部
マネージャー鹿熊佳恵】

資料共有に活用していく
ことで生産性を高めている。
「写真の格納など、
協力業者とのデータ
のやり取りがしやすくな
りました」（高橋勅光
氏）

そこで同社では、3年前より施工管理アプリANDPADを導入。協力業者との情報共有を行うことで生産性を高めている。「写真の格納など、資料共有に活用していく。協力業者とのデータのやり取りがしやすくなりました」（高橋勅光氏）

収益不動産を活用した資産運用コンサルティング事業を展開する大和財託（東京都渋谷区）は、自社で設計から施工管理することで中間コストを削減。高品質を保持しながらも原価を抑えること

で高い利回りを実現している。コストを抑えることを目的に建材や各種専門工事業者を分離発注しているため、協力業者数も多い。

さらに、高齢な職人も多い中、「パソコンに長けた方は少なくて、かろうじてスマホを持っていいるような状況」。現場で不明点があった時に電話だけでは要領が得られない場合は翌日に持ち越し、監督が再度現場に行って説明することもあります

そこで同社では、3年前より施工管理アプリANDPADを導入。協力業者との情報共有を行っている。「写真の格納など、資料共有に活用していく。協力業者とのデータのやり取りがしやすくなりました」（高橋勅光氏）

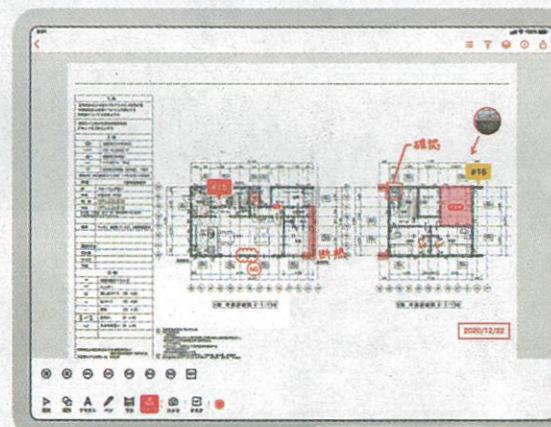
職人直発注で 高利回り実現

現場を支える職人には70歳代、80歳代といった高齢の一人親方が多い。今や、現場は彼ら高齢者の存在なくしては成り立たない。最新テクノロジーの施工現場導入に拍車がかかる一方で、変化に追いつけない人も出てくるだろう。デジタルスキルに不安を抱える人でも扱いやすいシステムがより求められている。

テクノロジーが変える
建設業界の未来 Vol.17

大和財託

職人も使えるアプリ導入 現場状況スマホでやりとり



▲ ANDPADで資料を共有すれば、図面の変更もリアルタイムで確認できる。現場においても、画面を拡大し、細かい部分の仕様もしっかりと確認できる

